

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2014年10月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第558号

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか」(マタイ22章36節)。私たちは、多くの「しなければならぬこと」に囲まれて生きています。「あれもしなければなりません。これもしなければなりません」。それらの一つ一つが私たちを圧迫します。

この難しい問いに対して主イエスは、第一に「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(同37節、申命記6・5参照)、第二に、「隣人を自分のように愛しなさい」(同39節、レビ記19・18参照)と語られました。

「神を愛する」とはどういうことでしょうか。それは自分という存在を神との関係の中に置くこと、と言えるかもしれません。神が自分を生かしてくださっていることを心に留め、感謝をし、神を神として立てるのです。神への愛と隣人への愛には区別と順序があります。密接につながっています。

主イエスはこの二つを同時に語られました。二つのうちどちらかが欠けても両方が見えなくなってしまうからで

す。神への愛は隣人への愛によって具体的に示される一方、隣人への愛は神への愛によって基礎づけられます。また、隣人への愛は神への愛の証しの場所であり、神への愛は隣人愛の源泉です。ここに愛の相互関係があります。

もうひとつ興味深いのは、「隣人を愛しなさい」という

愛の三位一体



関東運営委員

松本 敏之

ところに、何気なく「自分のように」という言葉が入っている点です。ここで前提になっているのは、人は誰でも自分を愛することを知っているといることであり、愛してよいのだということでありましょう。

愛することは、強制されてできるものではなく、本来、内側からあふれ出てくるよう

なものです。それが義務的になってしまうと、神様のために何かしなければ、人のために何かしなければ、という思いに、自分自身がつぶれてしまいかもしれません。あるいはそのように喜びがない場合は、「自分はこれだけのこと

をしてあげているのに、相手はそれに応えてくれない」と、不平不満が募ってきたりします。ですから私は、隣人を愛するということにも、神を愛するということにも、そこで本当に自分も生かされるといふことが大事であると思います。「自分を愛する」という表現に抵抗があるとすれば、「自分を大切にする」という言葉でもよいでしょう。

今回のタイトルを「愛の三位一体」としました。神を愛すること、隣人を愛すること、主イエスはこの二つのことを言われたのに、なぜ三つなのかと思われた方もあるかもしれません。私はこの二つの掟の間に隠れている「自分を愛する」ということを含めたいと思ったのです。「神への愛」と「隣人への愛」この二つの愛に生きながら、自分が最も自分らしくなり、喜んで生きていけるようになる。そうした生き方こそが、本当に魅力があり、人に対しても証しになるのだと思います。

最近、自死の問題が教会の牧会上でも大きな問題として取り上げられるようになってきました。関東活動センターでも、今年四月から八月まで五回にわたって、「自死」に遭遇した人への慰めとは」という連続研修が行われました。アプローチの仕方はさまざまですが、私は「自死予防」という観点からしても、「自分を愛する」ということがもっと積極的に語られてもよいのではないかと思います。(日本基督教団経堂緑園教会牧師)

関東活動センター

●関東フォーラム「宗教対話」

「イスラエル・パレスチナ問題の真実
と和平構築に向けての二つの試み」報告

「イスラエル・パレスチナ問題を思う」

「日本が建設するジェリコ中小企業団地」

ITエンジニアリング研究所代表 岩浅 紀久さん

2014年7月29日(火)

早稲田奉仕園スコットホール

共催 早稲田奉仕園



イスラエル・パレスチナ問題という、よく「何千年にも亘る歴史的背景があり、複雑な宗教問題も絡むから、理解できない。」という言葉が聞きます。

果たして本当にそうでしょうか? この問題を扱う歴史学者は、そんな複雑な問題ではない。背景には1900年代に出てきたシオニズム運動があるが、要は、あの地域

を当時植民地支配していた大

国が、①パレスチナ人の了解

もなく、ユダヤ人の国を作っ

たこと ②その分割が、人口

比、良港のあるなし、耕作地

に向き不向き、などの点から

不公平な分割であったこと

③その国をユダヤ人は「イス

ラエル」という国名にしたこ

と、等から、現在の多くの問

題が出てきていると言いま

す。

①と②は、理解しやすいの

ですが、③は意外に盲点と

なっている問題です。

それは、聖書の中に、イス

ラエルは「選ばれた国であり、

選ばれた民である」と記述さ

れ、また、ユダヤ人がこの国

に集められた時、預言が成就

するところから、ユダヤ人だけでなく、一部のキリスト教徒にとつても、預言の成就と捉えられ、イスラエルによるパレスチナの武力支配をも肯定するという考えに繋がっているという点です。

パレスチナを独立国家として認め、イスラエルとパレスチナの2国にするという考えです。これは、イスラエルもパレスチナも認めています。

問題は、その時の境界線をどうするかで、フアタハは1967年の停戦時に定められた境界線から、大きく食い込んで隔離壁が築かれ、さらに、そのパレスチナ領域の中には、2014年の現在なお、次々にイスラエルによる入植地が建設されユダヤ人が移り住んでいます。

イスラエルがセキユリテイとイスラエル国民を守るため必要と言いつ張っているパレスチナ領土内の隔離壁、検問所、入植地は、2006年に国際司法裁判所で、違法判決が出されていますが、イスラエルは改めず、さらに拡張しています。

国連の介入は国連安保理における米国の拒否権発動により、機能せず、イスラエルによる侵略は留まる事があります。

これらの解決については、誰の目にも2国解決案しか無いように思われます。即ち、

パレスチナを独立国家として認め、イスラエルとパレスチナの2国にするという考えです。これは、イスラエルもパレスチナも認めています。

問題は、その時の境界線をどうするかで、フアタハは1967年の停戦時に定められた境界線から、大きく食い込んで隔離壁が築かれ、さらに、そのパレスチナ領域の中には、2014年の現在なお、次々にイスラエルによる入植地が建設されユダヤ人が移り住んでいます。

イスラエルがセキユリテイとイスラエル国民を守るため必要と言いつ張っているパレスチナ領土内の隔離壁、検問所、入植地は、2006年に国際司法裁判所で、違法判決が出されていますが、イスラエルは改めず、さらに拡張しています。

国連の介入は国連安保理における米国の拒否権発動により、機能せず、イスラエルによる侵略は留まる事があります。

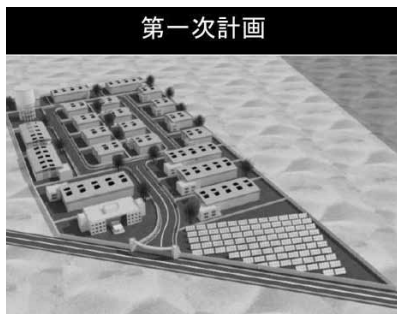
これらの解決については、誰の目にも2国解決案しか無いように思われます。即ち、

受け、実現に向かって現在建設が進められています。電力は100%太陽光発電を用い、排水はる過して再利用するなどの工夫をしています。

85社の工業団地が出来る、新規雇用が数千名生まれ、また周囲には従業員の住む町やマーケットも出来るでしょう。ジェリコという地はヨルダン川の国境を越えると、親パレスチナの国ヨルダンに入るの、多くの検問所で通行料を払う事も、時間と労力を掛けて検問を受けることもなく、輸出が容易になり、外貨が入ります。

こうした事が、パレスチナの貧困問題を幾らかでも改善することに繋がる事を期待しています。

第一次計画



関西セミナーハウス活動センター

●修学院フォーラム「いのち」第1回
「コントロール幻想」と新・優生思想の時代」

著作家 児玉 真美さん
2014年7月19日(土)



まず児玉先生がこの問題に関わるきっかけとなった2006年の出来事、たとえばUSAのニューヨークの葬儀屋がバイオ企業と組んで無断に人体資源を企業に渡していたことや、パキスタン大地震ではがれきのなかから臓器泥棒が多発したことなどの紹介がなされて、現代社会におけるいのちの危機が浮き彫りにされた。そうしてアシュリー事件に話しが及んだ。重症心身障がい児であるアシュリー(当時6歳)は、家族の

同意のもと子宮摘出、乳房摘出、ホルモン大量投与による身長抑制の医療的処置を受けた。この件はアシュリーの父親のブログがきっかけとなって全米で論争となった。問題のひとつは父親がこの処置を「アシュリー療法」と呼び、



積極的に推進しようとしたこと。この事件をもとに、現代社会におけるいのちのコントロールという根本問題が指摘され、さらに安楽死、無益な治療論というトピックを含めて議論がひろがっていった。現代社会はある種のいのちについて無意味という判断をく

だし、コントロールしようとかやつきになっている。しかしコントロールしただけで問題が解決するわけでもなく、むしろ障がいをもつままに受け入れ、安易に無意味と判断しないようにすることが大事だと話された。

●2014年度「開発教育セミナー」第3回
「非暴力トレーニングを体験する」
その理念と実践

非暴力平和隊・日本(NPJ)理事 大畑 豊さん
2014年9月13日(土)〜14日(日)



非暴力平和隊・日本(NPJ)理事の大畑豊さんを招いて15名の参加者と共に実施した。第1セッションでは「暴力」と「非暴力」について考えた。4〜5人のグループに分かれて「暴力」「非暴力」

動についての解説があった。第3セッションでは、日常的な暴力に遭遇したとき、どのような解決法が考えられるかについて、グループでコンセンサスが得られるまで話し合いをした。そして最後に「理想の学校(社会)」について考え、その理想の学校(社会)を実現するためのプランニングを行った。

「他者と共に問題を解決するためには、まず他者を理解することから始めなければならぬ」という言葉が心に響いた。「寛容さ」は「強さ」に裏付けられたものであり、その「強さ」があるからこそ、「非暴力」による運動が続けられるのだろう。

からイメージする言葉をあげたあと、「怒り」について考えた。「怒り」は健全な感情であり、ポジティブに考えることでエネルギーに変えることも可能であるが、「怒り」に支配されてはいけないということを確認した。

第2セッションでは、大畑さんから非暴力平和隊の活動についての報告があり、非暴力運動の実践について知ることができた。その後、ガンジーとキングの活動について紹介した映像を視聴し、二人の活



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む会「あたらしい聖書の学び」**
「イエスの世界の女性たち」(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑥10月7日⑦11月11日
⑧12月9日、火曜18:30～20:00

会場：早稲田奉仕園スコットホール2階222号室

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

■**関東フォーラム宗教対話I**

「古典で考える20世紀」
第3回「F. ニーチェ『悦ばしき知識』」

日時：10月24日(金)18:30～20:30

講師：武田利邦さん(農村伝道神学校講師)

会場：早稲田教会ロビー

参加費：500円

■**関東フォーラム宗教対話II**

「大人に響く絵本」第3回

講師：古賀博さん(日本基督教団早稲田教会牧師)

日時：11月28日(金)15:00～17:00

会場：早稲田教会ロビー

参加費：500円

■**協力プログラム**

『並木浩一著作集』完結記念シンポジウム

日時：11月28日(金)18:00～20:30

会場：日本基督教団中渋谷教会

主催：並木浩一著作集完結記念シ

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

シンポジウム実行委員会

参加費：無料

■**今日的課題プログラム**

シンポジウム「徹底して弱さの上に立つー柏木義円の生涯と思想に学ぶ」

基調報告：片野真佐子さん(大阪商業大学教授)

発題：山口陽一さん(東京基督教大学教授)、植木献さん(明治学院大学准教授)、平井和子さん(一橋大学特任講師)

日時：12月13日(土)14:00～16:30

会場：日本キリスト教会館6階集会室

参加費：1,000円

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘**

〈特別公演〉第2回もみじまつり

新能『融(とおる)』

日時：11月21日(金)17:00～

解説・出演：林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場：関西セミナーハウス

定員：50名

特別観賞料金：2,800円

■**月釜 清心会**

日時：10月12日(日)、11月9日(日)9:00～15:00 受付(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2014年度修学院フォーラム「社会」**

第1回「科学者の原罪と社会的責任ー福島原発事故の本質」

講師：政池明さん(京都大学名誉教授、物理学者)

日時：2014年11月1日(土)

13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,000円/学生500円

■**2014年度修学院フォーラム「社会」**

第2回「日本は暗い時代に向かっているのだろうか？」

集団的自衛権、特定機密保護法について考える」

講師：佐藤優さん(文筆家)

日時：2014年11月8日(土)

13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,000円/学生500円

■**開発教育セミナー**

2014年度第5回「映画上映「ある精肉店のはなし」+ワークショップ「食卓の牛肉から見える世界」

ワークショップ講師：

北出昭さん(映画『ある精肉店のはなし』の北出精肉店より)

丸山まり子さん(開発教育セミナー運営委員)

会場：同志社中学校・高等学校魁ホール

日時：2014年11月9日(日)

10:30～16:00

参加費：2,000円、映画またはワークショップのみ1,000円、高校生以下半額

◆**関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催**

■**2014年度もみじまつり**

日時：2014年11月23日(日祝)9:00～16:30

会場：関西セミナーハウス

お茶席、邦楽席(箏演奏)

特別展示「正教会のイコン」、講演「東方正教会の祈りの形」廣岡正久さん(京都産業大学名誉教授)

「能管の響き」野中久美子さん(能管奏者)

前売：3,000円(弁当付)

公益財団法人 日本キリストチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス / 関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告

2014年8月1日～2014年8月31日
(順不同・敬称略)

◆ 財団本部	賛助会費	西川 治郎	3,000
◆ 関東活動センター	浦 晴子	5,000	
◆ 賛助会費・後援会費	酒井 涼子	5,000	
西浦 昭英	2,000		
石橋 光朗	5,000		
◆ 関西セミナーハウス	大島 順子	5,000	
◆ 寄付金	梅山 猛	10,000	
高徳 芳忠	3,000		
小沢 英輔	5,000		
◆ 関西セミナーハウス	◆ 寄付金	井上 勇一	5,000
◆ 寄付金	都木 かおり	3,000	
シュベネマン クラウス	20,000		
◆ 関西セミナーハウス活動センター	◆ 寄付金	ロマリンドクリニック院長	
		富永 国比古	3,000
		鳥井 清司	10,000
		家形 日出	10,000
		井上 勇一	5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。